

第1回 大津市多文化共生・国際化推進プラン策定懇話会 議事録

1. 日時 令和8年7月16日（木）9：30～11：30
2. 場所 大津市役所新館7階 272会議室
3. 出席者
佐藤市長（途中退席）
＜委員＞ （五十音順）
（公財）大津市国際親善協会 堅田日本語教室ボランティア 伊原節子委員
日伸工業株式会社 総務部 総務課長 木下真一委員
立命館大学国際部副部長 立命館大学理工学部教授 野阪克義委員
京都教育大学 国文学科教授 浜田麻里委員
公募委員 バルガス・ベンジャミン委員
大津市瀬田東学区自治連合会 会長 松田全悟委員
（公財）滋賀県国際協会 事務局長補佐 光田展子委員
＜事務局＞
大津市 伊藤政策調整部長、小西多文化共生・国際室長、吉田主査、井上主事
受託事業者（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社）
4. 配布資料
 - ・ 資料1 議事次第
 - ・ 資料2 委員名簿・席次表・懇話会設置要綱
 - ・ 資料3 大津市多文化共生・国際化推進プラン（仮称）策定について
 - ・ 資料4 懇話会について
 - ・ 資料5－1 外国人の雇用に関する事業者アンケート結果
 - ・ 資料5－2 関係団体ヒアリング結果
 - ・ 資料5－3 市民アンケート調査概要・調査票
 - ・ 参考資料 国の外国人政策の動向と滋賀県の取組
 - ・ 参考資料 統計データから見る外国人市民の居住状況
 - ・ 参考資料 大津市の国際交流事業
 - ・ 参考資料 大津市国際化推進大綱
 - ・ 参考資料 大津市総合計画（抜粋）
 - ・ 参考資料 滋賀県多文化共生推進プラン
 - ・ 参考資料 滋賀県日本語教育の推進に関するアクションプラン
 - ・ 参考資料 鈴鹿市多文化共生推進計画
 - ・ 参考資料 福山市多文化共生推進プラン
5. 議事次第
 - 1 開会

- 2 大津市長挨拶
- 3 委員紹介 【資料2】
- 4 座長・副座長の選任
- 5 多文化共生・国際化推進プラン（仮称）の策定について
 - （1）プランの策定趣旨、策定に向けた取組、スケジュール 【資料3】
 - （2）懇話会で検討いただきたいこと 【資料4】
- 6 各種アンケート調査について
 - （1）事業所アンケート 【資料5－1】
 - （2）関係団体ヒアリング 【資料5－2】
 - （3）市民アンケート 【資料5－3】
- 7 意見交換
 - （1）委員の皆様のお取組み、日頃、感じていること、取組みアイデアの共有
 - （2）ディスカッション（質疑応答）

6. 議事概要

- （1）開会
- （2）大津市長挨拶

（佐藤市長）

- ・ 本日は大津市多文化共生・国際化推進プラン策定懇話会にご出席賜り、誠にありがとうございます。
- ・ 多文化共生・国際理解の推進について、長年、先人が築いてきた姉妹都市との交流等を通して、文化の相互理解に主眼を置いて取り組んで参りました。各団体のお力添えを頂きながら、市内在住の外国人の皆さまに対するコミュニケーション支援に取り組んでいただいています。
- ・ 一方で、我が国のみならず本市においても、就労を目的とする在留外国人の増加など、大きく社会経済情勢が変わってきています。私も市内企業への訪問で外国人の皆さまが活躍される姿を見えています。特に介護福祉分野では、様々な国の方のご活躍を目の当たりにしています。
- ・ 本年7月1日時点で、79の国・地域から、本市人口の約1.9%にあたる6,507人の外国人の方が在住されています。比率は県内他市町に比べると比較的低いですが、これからさらに外国人が増加すると見込まれる中で、日本人と外国人が相互理解を深めながら、共生し安心して住み続けられる地域を作っていくためには、さらなる取組が必要です。大津市総合計画第3期実行計画にも多文化共生・国際理解の推進を位置付けています。その具体的な取組、方向性をこのプランにしっかりとお示しすることで市民の皆さんにもさらなるご理解を賜りたいと思い、この懇話会を開催することにしました。様々なお立場からご助言をいただきながらプランを策定して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

- （3）委員紹介 【資料2】

（事務局）

- ・ 大津市多文化共生・国際化推進プラン策定懇話会は、学識経験者、多文化共生や国際交流の活動を行っている団体に所属する方、各団体から推薦された方、公募市民の方からなる組織

で、7名の方に委員をお願いしております。本日は7名全員にご出席いただいております。

(各委員)

- ・自己紹介（省略）

(事務局)

- ・事務局員紹介：（省略）
- ・当プラン策定支援業務の受託者紹介：（省略）

(4) 座長・副座長の選任

(事務局)

- ・懇話会設置要綱第4条第2項の規定により、座長及び副座長は懇話会を構成する者の互選により定めることとなっています。座長・副座長の選任について、ご意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。

(伊原委員)

- ・座長には浜田様、副座長には光田様を推薦します。浜田様はこれまで日本語教育の専門家として子どもや生活者を対象とした研究実践に長年携わられたほか、他市の多文化共生に係る会議の委員のご経験もお持ちです。光田様は県国際協会の職員として、長年滋賀県の多文化共生に係る施策の企画立案に携わり、今も第一線で活動されています。お二人ともこれまでの豊富な経験と知識、広い視点に立ってこの会議を取りまとめていただけたと思います。

(委員全員)

- ・異議なし

(事務局)

- ・それでは皆様にご承認いただきましたので、座長は浜田様、副座長は光田様といたします。
- ・佐藤市長は、次の公務のため退席させていただきます。（市長退席）

(5) 多文化共生・国際化推進プラン（仮称）の策定について

① プランの策定趣旨、策定に向けた取組、スケジュール 【資料3】

(事務局)

- ・資料3（大津市多文化共生・国際化推進プラン（仮称）策定について）について事務局より説明（省略）

(浜田座長)

- ・今回のプランのポイントは多文化共生を新しく追加し、庁内にも対応する組織体を作り、検討を進めていくということです。
- ・市として目指している計画のイメージがあれば事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

- ・イメージに最も近いのは、鈴鹿市と福山市で策定されたプランです。
- ・鈴鹿市の計画では、27 頁に基本理念としてビジョン、28 頁に施策体系として全体像が示されており、29 頁以降に具体的施策が記載されています。特徴として、実施主体として具体的に施策を行う所属・機関が明確に示されています。これにより各所属に当事者意識と責任感を持ってもらうことが可能です。また、重点施策が活動指標とともに示され、施策にメリハリを持たせて、適切に進捗管理ができる工夫がなされているほか、各主体の役割を明確に示しています。本市のプランにおいても、このような特徴を意識したいと考えています。
- ・福山市のプランも、施策体系と施策の方向性が示された後に、具体的な施策として取組内容と担当課が具体的に示されています。また、目標指標 (KPI) が主なものに付与されています。

(浜田座長)

- ・ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。
- ・ないようですので、次の議題に移ります。

② 懇話会で検討いただきたいこと 【資料 4】

(事務局)

- ・資料 4 (懇話会について) について事務局より説明 (省略)

(浜田座長)

- ・タイトなスケジュールですが、頑張って策定していきたいと思います。ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。
- ・ないようですので、次の議題に移ります。

(6) 各種アンケート調査について

- ① 事業所アンケート 【資料 5-1】
- ② 関係団体ヒアリング 【資料 5-2】
- ③ 市民アンケート 【資料 5-3】

(事務局)

資料 5-1 (外国人の雇用に関する事業者アンケート結果)、資料 5-2 (関係団体ヒアリング結果)、資料 5-3 (市民アンケート調査概要・調査票) について事務局より説明 (省略)

(浜田座長)

- ・ただいまの説明について、ご質問・ご意見はありますでしょうか。

(木下委員)

- ・会社としては正社員、技能実習生・特定技能の雇用をしており、瀬田事業所では従業員 250 名中、外国籍は 50 名弱と 5 分の 1 程を占めています。
- ・当社は従前、外国に製造拠点があり、外国の方との交流の文化があったため、社員は抵抗なく交流しています。一定のコミュニケーションや先輩から後輩、実習生同士・特定技能同士

の引継ぎもあります。今は我々が独自で動く部分が多いので、企業としては、他の事業所や法人、公的なサービス、団体につないでいただける支援があればありがたいです。

- ・ 定住目的の方と滞在に期限付きの方では、考え方や過ごし方が異なります。例えば、定住する方は電話番号を持っていますが、技能実習生・特定技能は、アプリがあればコミュニケーションが足りるので電話番号を持たない。その結果、行政との連絡が取りづらくなります。
- ・ 災害に関しては、今年災害区分が変わったことについて日本人でさえ理解が追いついていないので、防災や避難情報などをどのように外国人に案内すればよいのか、と思います。まずは日本人が災害時の対応方法について理解していかなければならないと思います。
- ・ 交通インフラについて、瀬田地域は比較的利便性が高いですが、大津市全体は大きい行政区で、私自身は湖西線の方面には行く機会がなく、そちらの地域の方々の暮らしや困りごとが分かりません。市としてどこを重点的にするのか。ばらつきや隔たりがないようにするには、オンラインの活用などで接点を増やしていただけると助かります。

(伊原委員)

- ・ 大津市国際親善協会堅田教室に所属していますが、ボランティア 8 名、学習者 28 名（4 クラス）と、ボランティア人数が足りない一方、勉強したい外国人が増え、待機者がいる状況です。ボランティアの担い手を増やすという面で行政から周知をしてほしいです。ボランティアには日本語を教える技術が必要なので、敷居が高い面があります。見学に来てでもやはりボランティアは難しいという人もいますので、セミナー等も充実してほしいと思います。
- ・ 職場以外のつながり作りで日本語教室に来る人も多く、教室で友人が出来る人も多いです。
- ・ 防災に関して、大津市国際親善協会としては外出に関するルールがあり、京都の防災センターに連れていきたくても難しい状況です。防犯や交通安全、消防については毎秋に警察や消防に来てもらい、電話応答等のデモンストレーションをしています。警察では、交通安全として二人乗りの禁止など、外国人が知らないことは多いので時間を取って教えています。

(浜田座長)

- ・ 防災についてはポイントになりそうだと思います。日本語教育はそもそもボランティア頼みで良いのかという根本の部分もあると感じました。

(7) 意見交換

- ① 委員の皆様の取り組み、日頃、感じていること、取り組みアイデアの共有

(光田副座長)

- ・ どのようなまちになってほしいかについては、30 年後も住みやすい自然豊かで便利であるまちであってほしいです。マンションの高さ規制もなく建つので、もう少しインバウンドも含め、規制なども検討してほしいです。経済の発展も大事で、経済的にも豊かであってほしいです。多様性を受け入れ互いに尊重されるまちであってほしいと思います。
- ・ 外国人の関わりとしては、2001 年から滋賀県における人権支援や多文化共生に関する事業として外国人相談窓口のコーディネート、日本語教育、外国にルーツを持つこどもの教育支援、企業・地域との連携など、幅広く取り組んでいます。

- ・滋賀県全般は南米の方が多く、南米の方との関わりが最も多く、次いで、フィリピン、ベトナムで、最近はウクライナの方ともつながりがあります。
- ・ブラジルの方からは介護や相続等ライフステージに関する相談が多いです。フィリピンの方は日本人配偶者やシングルマザーの方が多く、身分関係、教育などの相談が多いです。ベトナムの方からはあまり相談がありません。ウクライナの方は少ないですが、支援も少なくなり、若者たちが今後どのように生きるか問題に突き当たっています。
- ・外国籍の方との関わりで良かったことは、相談員や支援者との関わりから色々な文化や考え方を学ぶことができたことです。そのような機会が増えると良いと思います。
- ・15年前に始めた進路ガイダンスで、外国ルーツのこどもへの情報提供をしています。ある方は、中学校卒業後働こうと思っていたが、進路ガイダンスに来たことで、高校・大学に進学し、日本企業に採用され、家庭を持っています。小さな仕事でも人生を変えるようなこともあり、やはり今の取組は無駄ではないと嬉しく思います。

(伊原委員)

- ・15年間ボランティアで日本語を教えています。2年前から大学でも留学生の大学院生に指導をしています。日本にいながら外国人とふれあい、グローバルな視点を持つことができます。価値観や文化が違う中でお互いに学び合えることが有意義だと思います。
- ・今後、日本語教室では勉強を教えるだけでなく、地元の方など日本語の指導が出来ない人でも参加できるおしゃべりサロンのような教室ができると良いと思います。会話が下手ながらも、お互いに生活の知恵やごみ捨てのことなど、地域のことが教えられるので良いと思います。

(木下委員)

- ・これからの大津市について、事業所の立場から、若い人が働きやすいまちとして発展してほしいです。外国籍の人にとっても魅力あるまちにつながります。滋賀県の高校生や大学生は他府県に進学し、そこで就職することが多いです。地元で働ける場所があることを知ってもらう活動を、行政と協働できればと思います。また、入社いただく方は、海外に行ったことがない方が非常に多いです。SNSで海外の文化は知っていても、実際に行かなければ分からないことは多くあります。外国籍の方がいる企業が海外出張などで海外と触れて、また別の国にプライベートで行くということが広がっていくとよいと思います。
- ・外国籍の方と関わって良かったと思うことは、ご縁があり、社員が外国籍の方と家庭を持つというケースもあったことです。他方、外国籍の方にとっては行政や学校に関わるハードルが高いようです。日本語の理解が出来ても、学校行事になると、参加を尻込みするようです。行政や学校に外国人が関わりやすいようにしなければ、外国人が気持ちよく過ごすのが難しいと思います。

(野阪委員)

- ・立命館大学の留学生は学部と大学院と非正規生の合計で、2025年では3,388人です。出身は中国が一番多く、韓国、インドネシアです。BKC草津キャンパスの留学生は719名です。
- ・学部、研究科ともに中国人学生が最も多いです。

- ・立命館で学ぶ留学生の特徴として、目的意識が明確であること、アパート居住が多数でアルバイトもしていることが挙げられます。日本企業への就職希望が 32.5%、日本の大学院進学希望が 15.7%です。
- ・英語基準の留学生と日本語基準の留学生がおり、日本語基準の学生は日本語能力検定 N1 を取得していることが前提です。しかし、日本語のテストの点数がよくても実際にその場で授業を受けコミュニケーションをとるのは難しいと思っています。
- ・留学生の中には、経済的不安、孤独感や友人関係の構築、将来の不安を感じる人もいます。自治体への期待としては、通訳支援、多言語化、メンタルヘルス支援や、地域住民・学生との交流機会の創出という意見が学生から挙がっています。
- ・留学生の就職状況として、滋賀県で働く人はおらず、京都府には 22 名が就職しています。
- ・本学の Beyond Borders Plaza (BBP) という取組は、言語学習や国際交流を中心としたグローバルコモンズとして、大阪、京都、草津の 3 キャンパスに設置し、日本人の学生と留学生が交流企画や国際交流イベントを行っています。
- ・草津キャンパスにある国際寮は大津市にあり、自治体から少し予算もいただき、日本人学生と留学生が協力して地域の人と触れ合うイベントを行っています。国際共修・共創と呼んで、ともに学び、ともに創り出していく取組をしています。

(松田委員)

- ・大津市は、子育て支援・教育が充実し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる、福祉が充実した、こどもから高齢者まで安心して暮らせるまちになってほしいです。地域の繋がりが希薄化する中、地域の繋がりを大切にするまちを望んでいます。自治会・地域活動や多文化共生を推進し、日本人も外国人も支え合える地域社会になれば良いと思います。
- ・観光面も素晴らしい地域なので、歴史・文化・自然を活用した観光振興と、地域経済が発展する市になれば良いと思います。
- ・最も重要なことは、災害に強い安全安心なまちづくりです。大津市には断層が走っており、不安感がある中、災害の少なさを理由に瀬田東に住む人もいます。防災・減災対策を充実し、防犯にも注力し、市民が安心して住み続けたいまちになれば良いと思います。
- ・瀬田東学区は外国人が多いと聞きますが、実際に生活の場でそのような認識はありませんでした。瀬田東学区ではニュースで見るような外国人とのトラブルは少ないですが、日本人と外国人が居住するアパートではごみの分別がされていない例も見られるようなので、そのような点を外国籍の方に教えていただければありがたいと思います。
- ・瀬田東幼稚園では、突然外国人の家族が来園し、今日から入園したいというケースもあり、そのあたりの支援が行政からあるとありがたいとのことでした。
- ・大学の留学生で家族連れが多く、母国語が英語以外の方が多くなっています。幼稚園の先生が、外国人のこどもが話している内容を理解するのに時間がかかったという話も聞いたので、言語面の支援があれば良いと思います。
- ・最近、預かり時間の長さ、給食の有無を理由に公立幼稚園から私立のこども園に転園する方がいるそうです。外国籍のこどもは弁当持参の文化が少なく、弁当を持参することへの抵抗感で私立に転園すると聞きました。給食への支援もご検討をお願いしたいと思います。
- ・自治体として良かった話は、昨年度、地域の単位自治会で外国人の方が組長に選ばれて、1

年間活動を全うして頂き助かったということです。

- ・一方、車道を歩く外国人を見かけるので、指導していただけると良いという話がありました。その場面はたまたまかもしれませんが矯正してほしいと思います。

(バルガス委員)

- ・ 7 年前に JET プログラムの参加者としてアメリカから来日しました。5 年間住んだ青森市では、翻訳や異文化理解講座を開催するなど、少しでも異文化理解推進に貢献できたと思います。2 年前から唐崎駅の近くの全国市町村国際文化研修所 (JIAM) で働き始め、国の政策を学びながら全国の自治体職員に役立つ研修を企画・開催しています。
- ・ 大津市に来て印象的だったのは、坂本地域は家族が多く活発なまちということです。松田委員がおっしゃったように、自分が住む地域ではあまり外国人を見かけません。
- ・ 青森市では自治会の入り方は明確で、みんなが挨拶してくれましたが、大津市で住んでいるアパートではごみ回収は別会社に委託され、自治会への入り方は分かりません。こちらから挨拶すべきなのか迷うとき、返事をしてくれないときがあり、挨拶してくれるよう手紙でお願いしようかとも思ったぐらいです。青森市はもう少しコミュニケーションがありました。もっと大津市のコミュニティに入りたいので、行政の力をお借りできればと思います。

(浜田座長)

- ・ 大学生の時に日本語教育という仕事があると知り、日本語教育の仕事にずっと携わっています。今は学校教員を目指す学生たちにこどもへの教え方を授業しているので、今、実際に関わっているのはこどもや保護者が中心です。学生と一緒に外国ルーツのこどもの交流会を実施するなど、私自身もボランティアでこどもの学習支援に携わっています。学校の先生は苦労されていると感じています。
- ・ 外国人と関わることで、文化や言葉の違いはありますが、様々な価値観や生き方を知ることによって視野が広がる経験をしました。多様な文化に接することを通じて、人々が自分の力を発揮できる社会、多様さが大変さを超えて強みになる社会になれば良いと思います。大津市でも多様な文化に対してポジティブに接する土台作りが出来ると良いと思います。

(松田委員)

- ・ 幼稚園が普段困っているのは、外国の方は時間感覚が日本人と異なる点と聞いています。外国の方が始業時間や行事に遅れてこられると、他の園児にも影響して、こどもが遅れても良いと思ってしまうそうです。日本人の時間感覚を共有していただけると助かるという話を聞きました。

(バルガス委員)

- ・ 日本人でもごみ分別していない人がいると思います。分別していない方がいる場合、そのアパートで唯一外国人である私が疑われてしまうので、皆さんに分別をしっかりとしてほしいです。これは文化の問題というより、個人の問題だとは思いますが。

② ディスカッション (質疑応答)

(浜田座長)

- ・ 具体的にどのようなであれば、外国人にも日本人にも魅力的で住みやすいのでしょうか。どうすれば多様性が受け入れられたと思えるのでしょうか。
- ・ 外国人の属性ごとにどのようなニーズの違いがあるか、具体的にお伺いしたいです。
- ・ 防災や災害が起こったときの対応について、ご意見・ご経験があれば伺いたいです。
- ・ また、特に若者に、多様な文化に興味を持ってもらうにはどうしたらよいのでしょうか。
- ・ 多言語について、行政からどのような支援を期待するかという面も伺いたいと思います。

(光田副座長)

- ・ 住みやすいまちの第一は安心安全なまちであることです。外国人が増えると犯罪が増えるといわれますが、データを見ると減っています。啓発やメディアリテラシー、正しい情報を適切に発信することが大事だと思います。
- ・ 多様性については、まずは知ることが大事です。地域で集える場所があると顔の見える関係になります。分かれると「怖い」という印象が無くなるので、交流の場所があると良いです。愛知県の技能実習生が、滋賀県で留学したとき、滋賀県では交流の場所が少なく、技能実習生としての自分への態度と留学生としての自分への態度が少し違うという話も聞きました。
- ・ 災害が起きると、気象庁が多言語で情報発信していますが、情報が多くあっても活用されることが少ないので、検討が必要です。
- ・ 日本語教育については、ボランティア頼みになっていることが問題です。地域で日本語教育を考えるとときには、行政の役割と、ボランティアが支援することは分けて考えていただきたいです。滋賀県では日本語教育推進のアクションプランを策定し、今年から総括コーディネーターを配置し、拠点センターで養成講座の実施やオンラインでの日本語教育を提供しています。その他、厚生労働省でも、オンラインでレベル別に日本語教育を受けられるようにしています。それらを活用してほしいと思います。

(バルガス委員)

- ・ 大津市は住みやすいと感じています。しかし、大津市は観光資源があるのに、外国人にはあまり発信されていません。比叡山は日本人にとってどのような意味があるかなど、知ってもらえると良いと思います。私の近所でも家族が多いので京都に遊びに行く方が多いですが、せっかく大津市に住んでいるので大津市で観光をして、大津市の経済に貢献したいと思っています。
- ・ 青森市はりんご、山形はさくらんぼが思い浮かびますが、滋賀と言えば、大津市と言えば、として思い浮かぶものが少ないので、意識を持って発信できると良いと思います。

(松田委員)

- ・ 瀬田東学区では今年度から、障害者の方の避難訓練を取り入れます。しかし、外国人に対するアナウンスが無いので、しなければならないと思いました。防災減災の基本は、住みよいまちづくりだと思います。
- ・ 大津警察署子ども安全リーダー連絡協議会の会長をされており、大津警察署管内の小学校・幼

稚園等に対して、人形劇と寸劇を通して防犯教室を実施しています。知らない人にはついて行かないようにと教えていますが、近所の知らない人にも挨拶をしないことと勘違いしている面があります。先ほどご指摘のあった、近所の人が挨拶をしないということにつながっているようにも思います。

- ・そのため、地域活動の中で子どもを含めた地域住民が集える行事が必要です。瀬田北中学校では地域 Ranger（レンジャー）活動を推奨し、生徒に地域行事への参加を推奨し、参加回数により表彰する制度を設けています。例えば、瀬田東学区で毎月実施の「ゴミ拾い防犯活動」にも中学生のレンジャー活動の生徒さんが部活動前等に参加してくれています。その保護者や兄弟姉妹も一緒に行事に参加していただけます。
- ・これらにより、少しずつ住みやすい、魅力あるまちに近づいていると思います。子どもが親になった時により充実した活動をしてくれると思います。避難訓練に参加してくれる方の多くはお年寄りが多いので、若い方の意識を変えていく必要があります。それを変えてくれるのが、レンジャー活動をしている中学生ではないかと思います。

（浜田座長）

- ・他地域では外国人も参加する避難所開設訓練や防災訓練などを実施しています。避難所で一緒に過ごすことで異なるニーズを学ぶ貴重な機会になっていると聞きます。大津市でも、防災・減災が安全安心なまちづくりにつながるとご発言いただきました。
- ・自治会への勧誘も、外国語で案内物を作るなど積極的に取り組んでいるところもあります。

（松田委員）

- ・地域の盆踊りに外国人の方が一緒に踊っている姿も見ることがもあり、良い光景だと思います。

（伊原委員）

- ・私が住んでいる大津市北部、和邇は南の地域と違って、外国人に会うことが少ないです。隣の小野と堅田では外国人が多く住んでおり、日本語教室をしても小野や堅田の方が多いです。あまり外国人とのトラブルはないですが、外国人が少ない中で孤立する家族がいるかもしれないので、堅田教室に来ていただき仲間づくりが出来たらよいと思います。
- ・堅田のコミュニティセンターで事業をしていますが、来年の春から和邇に移った場合、教室も広くなるので、スタッフや受入れ人数を増やして色々な活動をしたいと思っています。
- ・社会福祉協議会の事務局長として、災害の計画を立て、避難所で色々な家族と1晩過ごす経験をしました。外国人の方にもそのような体験をしてほしいですが、スタッフ不足でできないので、検討いただければありがたいと思います。

（木下委員）

- ・行政は、事業所などが知らない情報を多く持っているので、ぜひ発信してほしいです。オンラインで防災の情報があるということも初めて知りました。情報があってもそのこと自体を知らなければ意味がありません。知るきっかけをどのように増やしていけるかが課題です。
- ・ボランティアの苦勞という点では、学生 100 人中ひとりでも参加してくれれば、そこから輪

が広がることもあるので、情報発信を積極的にしていただきたいと思います。

(野阪委員)

- ・大学の授業は時間通りに来る必要があります。時間について理解しルールを守ることが出来ますが、お祈りについては授業中もお祈りをしてもらおうのか、など検討の必要があります。
- ・お互いを知るしかないということは確かです。ルールが異なるのであって、ルールが守れないわけではないのです。学生を指導する際も、ここは守らなければいけない、守らなければどうなるかまできちんと伝えることが必要です。外国人学生が行政に行くとき、同じ寮に住む日本人学生がついて行きますが、行政の言葉は日本の大学生でも分からないようです。
- ・言語はコミュニケーションのツールなのか、文化を知るための緩衝材なのか切り分けて考えていかなければなりません。違う文化があるという意識を持って、行政がもう少し手を差し伸べた方が良いのではと思います。
- ・アンケートで、外国人従業員は休日は同胞と過ごすことが多いという回答もありましたが、日頃は仕事で大変な思いをしながら、日本語でのコミュニケーションをとっているので、休日は家族や同国コミュニティの人と過ごしたいというのは当然だと思います。

(伊原委員)

- ・アンケートでは、企業からの回答率が 20～30%ということですが、アンケートに回答していない企業では、外国人が困っていても放っているという実態もあるかもしれません。

(浜田座長)

- ・様々なご意見をいただきありがとうございました。次回の懇話会では現在仮称となっているプランのタイトル、大津市が目指すべき姿について、意見交換をする予定です。次回までに事務局から送付されるシートを活用してアイデアを練っていただければと思います。

(8) 閉会

(事務局)

- ・次回の懇話会は、9月4日（金）の午後2時から、場所は大津市役所内です。
- ・本日は、長時間にわたり、貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。

以上